



—小平のまちづくりについてみんなで考えましょう—



# まちづくりカフェ・ニュース Vol.5

平成 27 年 10 月

## 小平のまちづくりについて考える

### 平成 27 年度第 2 回まちづくりカフェ（5 回目）を開催しました！

平成 27 年度第 2 回まちづくりカフェを 9 月 26 日に開催いたしました。

今回は、「小平の魅力」について“お気に入りの場所は？”“小平の魅力を活かして、どんな生活がしたい？”などの視点から意見交換を行いました。

今回は、参加者全員が同じグループで話し合いをしたので、いつもとは違う雰囲気活発な話し合いができました。その様子について、概要をご報告します。



#### 開催概要

◆日 時：平成 27 年 9 月 26 日（土）

午前 9 時半～正午

◆場 所：中央公民館 2 階 学習室 4



#### 第 5 回目の内容

- 1 開会
- 2 前回のふりかえり
- 3 本日の進め方
- 4 意見交換
  - ・小平の魅力について考えよう
  - ・魅力を活かし、小平だからできる暮らしについて考えよう
- 5 本日のまとめ
- 6 閉会

## 前回のふりかえり

冒頭に、8 月 29 日に開催された「まちづくりフォーラム～小平市都市計画マスタープラン改定にあたって～」をまとめた「まちづくりカフェ・ニュース特別版」と、平成 27 年度第 1 回まちづくりカフェをまとめた「まちづくりカフェ・ニュース Vol.4」を使って、前回は振り返りました。



#### ふりかえりの概要

まちづくりフォーラムの講演会で、松本暢子先生は、将来の小平市での「暮らしたい」を実現させるためには、人のつながりが大事であることや、景観や駅などの小平の「資産」を活かして、暮らしの質を向上させ、みんなで暮らしのイメージを共有することが大事であると話していました。

前回のまちづくりカフェでは、「小平でどのような暮らしがしたいか」、「そのために何が必要か」を話し合っ、暮らしのイメージの共有を図りました。また、駅周辺のまちのあり方についても話し合いました。

そこで今回は、小平の魅力を考えて、それを活かした暮らしについて考えてみます。

# グループワークの概要

## 小平のどのようなところを気に入っている？

グループワークの前半では、「小平の魅力」について探るため、小平のどのようなところを気に入っているか話し合いました。小平に長く暮らしている方から、最近引っ越した方まで、小平に対する思いはそれぞれようです。

### ■小平の魅力だと感じていること

#### 都市構造や自然環境

- ・市外への交通アクセスが優れている。
- ・市を南北に歩いていると必ず玉川上水にぶつかる。孫と散歩できるし、市外からの友人を案内できるスポットにも適している。もっと自然を感じたければ、市外の西の方へもすぐに行けるし、都内へ行きたくれば電車ですぐに行ける。ほどよい便利さが心地よい。
- ・坂があるまちから引っ越してきたので、小平は動きやすく、自転車でも走りやすいと感じている。
- ・小平は、都心部よりも家賃が安いので住んでいるという一面はある。しかし、西武線が不便なわけではなく、通勤には問題ない。日常の買い物は不便だが、そのような役割は、他のまちに任せるという考え方もあると思う。
- ・魅力がないのが魅力と思っている。しかし、まちを活性化できる要素はある。



#### 地域との関わり・コミュニティ

- ・今は状況が違おうのだが、昔は近所の保育園や幼稚園に入りやすく、子供を介したコミュニティが作りやすかった。
- ・活動が盛んで積極的な市民が多いまちだと思う。市民講座へ出かけると、そのように感じる人が多い。
- ・地域に、外から引っ越してくる方を受け入れてくれる土壌がある。そのため、コミュニティと関わりやすい。



#### まちの賑わい

- ・一橋学園周辺は、昔は畑ばかりで住むところではなかった。今は多くの店ができています。
- ・西荻窪では、商店街が外からの客に無料でお茶を振る舞う、お散歩イベントがある。小平市も、そのようなイベントをできるのではないかと。
- ・現状の小平で何ができるか考えると、農産物の活用がある。農産物を集約して販売できる仕組みができないか。また、農産物の出張販売をしたら、そこに賑わいが生まれるかもしれない。

### ■小平の不便さを感じていること

- ・若者に魅力ある店がない。このままでは、若者は小平の店を使わないと思う。
- ・今の賑わいのままで小平に若者を呼んでも、SNSで逆によくない噂が広まってしまうのではないかと。賑わっている地域は、もともと魅力的なお店があるものだ。
- ・大きな公園が近くにあると思うが、そこまでの移動など市内の移動が不便だと感じることはある。



### ■まとめ

小平の魅力としては、「みどり・自然に恵まれていること」、「ほどよい便利さを享受できること」、「活動的な市民が多いこと」の外に、「災害等が少なく比較的安全・安心な暮らしができること」なども挙がりました。

ただ、魅力について話をしていると、その裏返しでもあるマイナス面についての意見も出され、「ほどよい便利さというのは不便な面もあるということ」、「ファミリー層、高齢者には良いが、若者にとっては魅力が欠ける」といった声が多く挙がりました。

## 小平の魅力を活かして、どんな暮らしがしたい？

後半では、前半で出された小平の魅力を活かして、どのような暮らしがしたいか話しました。その中で、小平は「ほどよく便利」という意見が多かったので、「ほどよい便利さ」と生活について意見を出しました。



### ■どんな暮らしがしたいか

- ・公園などの整備された自然もよいが、「自然度」の高いありのままの自然があるなかで、子どもを遊ばせたい。
- ・このまちをどういうまちにしてほしいかは、それぞれ価値観が違うので、思ってもそれぞれだと思う。でも、生活の中心は人。だから、「心」が育まれるまちで生活したい。
- ・市外から人を呼ぶような店が必要だとは思わないが、せっきゃく市内にいる学生が寄れる店は必要だと思う。
- ・小平は、まだ人口が減っていないことを考えると、小平の生活にみんな満足していることがあるはず。でも、小平について知らないこともあるので、いろいろと教えてほしい。

### ■「ほどよい便利さ」は、生活にどのように関係するか

- ・「そこそこ便利に感じる」の「そこそこ」も、人それぞれに感じる場所である。でも、「そこそこ便利」で、「そこそこ不便」という、ちょっと不便だからこそその良さがあると思っている。
- ・完全な便利さは求められないので、小平をいかに「住みこなすか」ということを考えるべきだと思う。
- ・様々な経験を積んできた「専門家」の市民がたくさんいるはず。暮らしに困っていることがあれば、そのような人にすぐ頼めるようなネットワークを作れば、例えばちょっとしたトイレの修理に、多額のお金をかけなくても済むことがある。また、逆に、頼まれた高齢者にとっては、それが生きがいにもなるのではないか。
- ・核家族となって、代々守る家がなくなってきている。代を継ぐということは、人を繋げること。決して物質を継ぐものではない。自治体に頼ることを考える前に、家族の絆を考えるべきだと思う。そのためには、大型化しないまちづくりが必要ではないか。そして、身近で不便を感じない生活で大事なことは食事である。店の大型化は、若い人にはいいが、高齢者には不便だと思う。身近な商店をなくさない工夫が必要だと考えている。
- ・市外の賑わっている商店街は、そもそも店自体の魅力がある。また、今は、便利さを求める傾向があるので、インターネットを使って買い物をする人が増えてしまっている。
- ・人がいて、あたたかさがあるまちは、「まちが活着ているな」と思う。本来は、そのようなまちになってほしい。

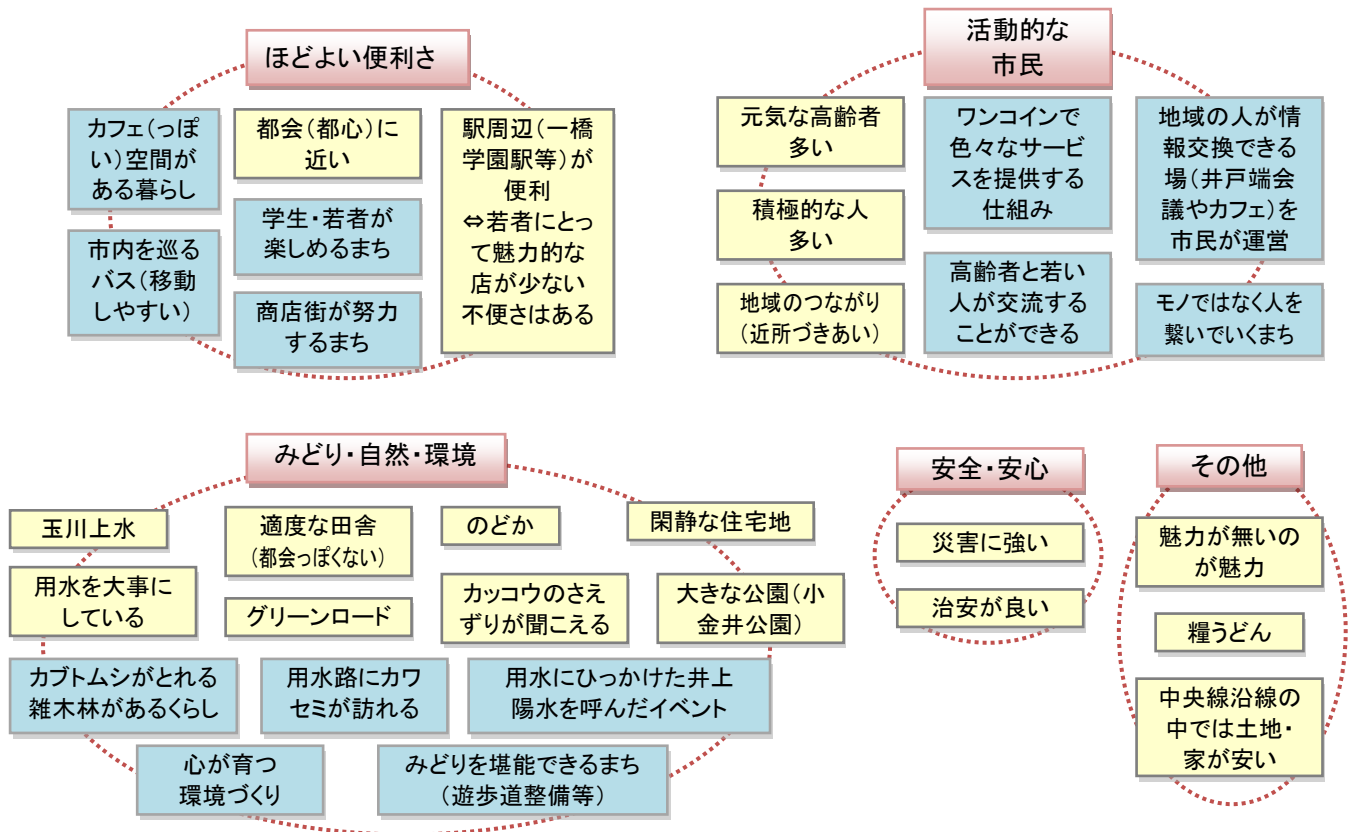


### ■まとめ



多くの方が「みどり・自然をもっと楽しめる暮らし」に関する意見を出してくれました。例えば、「カブトムシが取れる雑木林が今もあり、そういうところを残していきたい」、「まちなかの水路にカワセミが訪れるようになれば良いな」といった意見や、「用水がたくさんあるという事から、井上陽水を呼んでイベントが出来ないか」といった面白い意見も出ていました。その他、活動的な市民が多いという特徴をいかし、「そういった人たちの力を活かした情報交換できる場(井戸端会議やカフェ)を設けてはどうか」といった積極的な意見も出ていました。また、そういったところを上手く活用しながら、「モノではなく人を繋いでいくまちになれば良い」といった意見も出ていました。

〈主な意見の概要〉 ※黄の付箋は「魅力(特徴)」、青の付箋は「魅力(特徴)を活かした暮らし・まち」、



## コメント (野口和雄氏：まちづくりプランナー)

今回のまちづくりカフェを通して、一番感じたのは、「多摩の中で小平市が最も和気あいあいと意見交換ができる市民がいる」ということです。実は、他のところではもっと文句を言う人がいたりとこんなに楽しく話し合うことができません。こういう人がたくさんいるというのも小平の魅力と言えるのではないのでしょうか。小平市は周辺自治体と比較しても住宅都市として高いステージにいると思います。しかし不満もあるでしょう。例えば、横浜では、東急などの民間も巻き込みながらまちづくりを進める取組みを始めました。みんなと一緒に考えて知恵や場、そしてお金も出しあうのです。それにはみんなが自分のまちに対して愛着をもつようにシビックプライドを育む必要があります。今回の小平市のマスタープランでも、市民の活動が生まれ、それをバックアップするような仕組みも盛り込んだものになれば良いなと思います。



## 都市計画課事業のご案内

### ■景観まちづくりセミナー

景観まちづくりセミナーの詳細は、市報や市ホームページをご覧ください。下の問合せ先までご連絡ください♪



	第1回	第2回	第3回	第4回
日時	平成27年10月28日(水) 午前10時～午後3時	平成27年11月11日(水) 午前10時～午後2時	平成27年11月25日(水) 午前10時～午後3時	平成27年12月2日(水) 午前10時～午後3時
内容	小平のまちなみの歴史をあるいてみよう	模型づくりでまちなみを知ろう	宅地に移り変わるまちなみをあるいてみよう	まちなみデザインを実践しよう
会場	小平市中央公民館			

《問合せ先》 小平市 都市開発部 都市計画課 計画担当

電話 042-346-9554(直通) / FAX 042-346-9513(代表) / e-mail dh0012@city.kodaira.lg.jp

※グループワークでの話し合いによるご意見は、参加者の思いやお考えとして、そのまま掲載しております。